

名称	流入 河川	所在地
多摩丘陵の湧水		
●日野市(前号よりつづき)		
八坂神社南西	程久保川	南平 4-8
七生中学校プール脇	浅川	南平 6-7
民家	程久保川	三沢 3-
大宮神社東側合流前		
	程久保川	落川 1100
駐車場東側	程久保川	落川 990
わかさ幼稚園西	程久保川	落川 944
民家	程久保川	程久保 8-
民家前	浅川	平山 1-
民家	程久保川	程久保 6-
大東ガス裏	程久保川	南平 3-8
大東ガス事務所前	程久保川	南平 3-8
マンション前	大栗川	百草 600
駐車場脇	程久保川	程久保 4-3
京王ガード脇	程久保川	三沢 3-47
都立南平高校	浅川	南平 8-11
七生特別支援学校訓練棟脇		
	大栗川	程久保 843
ひたまり公園下	程久保川	程久保 8-21
百草園通り	大栗川	三沢 2-3-6
わかば保育園	程久保川	程久保 3-21-2
●多摩市		
寺ノ入湧水	乞田川	中沢 2-10
●稲城市		
妙見寺	三沢川	百村 1588
穴澤天神社	三沢川	→多摩川 矢野口 3292
加丘丘陵の湧水		
●八王子市		
小宮公園大谷弁天池		
	谷地川	大谷町
石川東公園	谷地川	石川町 1240-1
清水公園	川口川	大目町 145
上川中部児童遊園	川口川	上川町 1207
子安神社	川口川	中野山王 2-23
日本機械工業	浅川	中野上町 2-31
名綱神社	浅川	畹町 2-2-21
御堂神社	川口川	川口町
民家	川口川	中野山王 2-
(湧水群)	山入川	上川町 1099 周辺
	山入川	美山町 2160 周辺
	山入川	美山町 1908 周辺
	谷地川	戸吹町 1664 周辺
	山入川	美山町 1666 周辺
	川口川	大目町 539 周辺
	川口川	大目町 390 周辺
	谷地川	梅坪町 40 周辺
民家	川口川	大目町
上川農村環境改善センター裏	川口川	上川町 925
	川口川	川口町
	川口川	川口町
	川口川	川口町
	浅川	上恩方町 2360
●あきる野市		
広徳寺	秋川	小和田
	秋川	高尾
	秋川	綱代
	秋川	綱代
小峰公園	秋川	小峰台
	秋川	引田
	秋川	引田
加丘丘陵の湧水		
●青梅市		
天寧寺	霞川	根ヶ布 1-454
安楽寺	成木川	成木 1-583
新福寺	成木川	成木 5-1312
民家	成木川	成木 7-
民家	成木川	成木 7-
草花丘陵の湧水		
●あきる野市		
民家	平井川	菅生
民家	平井川	菅生
民家	平井川	菅生
民家	平井川	菅生
草花公園	平井川	原小宮 306
民家	平井川	草花
花蔵院	平井川	草花 1726
Kコンクリート	平井川	草花 513
白石の井戸	平井川	草花 285
民家	多摩川	草花
民家	多摩川	草花
民家	多摩川	草花
西多摩公園	鯉川	菅生
	鯉川	菅生
	鯉川	菅生
神霊教	鯉川	菅生
	鯉川	菅生
	鯉川	菅生
水沢川	水沢川	草花
立川国際カントリークラブ	平井川	草花
金比羅山	秋川	五日市
	秋川	入野
	秋川	入野
横沢入	秋川	横沢
北伊奈西	秋川	伊奈
秋留台地の湧水		
●あきる野市		
民家	秋川	引田
民家	秋川	引田
民家	秋川	引田
真照寺	秋川	引田 863
真城寺	秋川	上代継 344
白滝神社	秋川	下代継 299
民家	秋川	油平
秋川神社下	秋川	牛沼 98
民家	秋川	牛沼
民家	秋川	牛沼
民家	秋川	牛沼
こもれびの里	秋川	雨間 390
民家	秋川	雨間
民家	秋川	雨間
市立南秋留小学校	秋川	雨間 774
雨武主神社	秋川	雨間 1945
民家	秋川	小川
民家	秋川	小川 820 地先
民家	秋川	平沢
民家	秋川	平沢
広済寺	秋川	平沢 732
民家	秋川	平沢
製の木板お滝	多摩川	二宮 2337
二宮お滝	多摩川	二宮 2129
	多摩川	二宮 1988
民家	多摩川	二宮
民家	多摩川	二宮
民家	多摩川	二宮
二宮神社	多摩川	二宮 1190
二宮神社	多摩川	二宮 1190
民家	多摩川	野辺
八雲神社	多摩川	野辺 316-1
民家	多摩川	野辺
民家	多摩川	野辺
民家	多摩川	野辺
民家	多摩川	野辺
民家	多摩川	野辺
民家	多摩川	小川
民家	多摩川	小川
民家	多摩川	小川
民家	多摩川	小川
民家	多摩川	二宮
民家	多摩川	二宮

東  
EAST

出典「湧水調査報告書」平成 19 年 3 月 福生市環境課  
「東京の名湧水 57 選」東京の湧水ガイドブック」平成  
15 年 7 月 東京都環境局

# 三多摩テーゼの「ふるさと」はいま…

朝岡 幸彦

Yukihiko Asaoka  
あさおか ゆきひこ ●東京農工大学・教授、専門は社会教育。著書に「食育の力」(共著、光生館)

多摩地域における公民館数の変化				
自治体名	1980	1990	2011	2011年の人口 (人)
八王子市	2	2	0	581,670
立川市	10	6	0	179,846
武蔵野市	0	0	0	138,675
三鷹市	0	0	0	186,159
青梅市	0	0	0	139,183
府中市	7	11	11	255,686
昭島市	0	1	1	112,286
調布市	3	4	3	224,415
町田市	1	1	1	427,531
小金井市	3	4	5	119,596
小平市	5	9	11	187,124
日野市	1	1	2	180,796
東村山市	1	3	5	153,609
国分寺市	4	5	5	119,948
国立市	1	1	1	75,468
田無市	1	3	6	西東京市 199,149
保谷市	2	3	—	
福生市	3	3	3	59,159
狛江市	4	2	2	78,488
東大和市	4	4	5	83,684
清瀬市	0	0	0	74,250
東久留米市	0	1	0	116,035
武蔵村山市	1	1	2	70,363
多摩市	1	1	2	146,587
稲城市	3	4	5	85,707
秋川市	1	1	1	あきる野市 81,071
五日市町	0	0	—	
羽村町(羽村市)	1	1	0	56,835
瑞穂町	1	1	0	33,305
日の出町	0	1	0	16,847
檜原村	0	0	0	2,473
奥多摩町	0	0	0	5,873
合計	60	74	71	4,191,818

「公民館は地域における住民の自由なたまり場、交流の場をかねそなえた学習と文化の殿堂です。」と宣言した、いわゆる「三多摩テーゼ」(東京都教育庁社会教育部『新しい公民館像をめざして』1974 年)が公表されてから、はや40年が経ち続けている。

## 行政改革のもとで減り続ける公民館

文科省の社会教育調査によると1981年に1万7222館(100)あった全国の公民館は、1990年の1万7931館(104)を経て、1999年の1万9063館(111)をピークに、2011年には1万4681館(85)にまで減っている。お膝元の東京都多摩地区に目を転ざると、公民館数は1980年の60館から1990年には74館まで増えたのち、2011年には71館にやや減少している(表)。この20年ないし30年の間に、それぞれの自治体で公民館をめぐる情勢がどのように変化してきたのか、一掃りにできない状況が確かにあろう。しかし、多摩地域の公民館といえども、全国の公民館が置かれている状況とは無縁とはいえない。

多摩地域にある30市町村のうちには、もともと公民館を設置していない六つの自治体(武蔵野市、三鷹市、青梅市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市)がある。武蔵野市や三鷹市は、いわゆるコミュニティセンター方式をとることで(基本的に)公民館を設置しない方針をとってきた。また、近年、

出典 ●「東京の公民館の現状と課題Ⅱ 一公民館事業論の構築をめざして」昭和58年3月31日発行 編集・発行:東京都立川社会教育会館  
●「平成2年度 区市町村社会教育行政の現状 ―社会教育行政調査報告書―」東京都教育庁生涯学習部 人口部分は、東京都統計年鑑 平成22年  
●「平成23年度 区市町村生涯学習・社会教育行政データブック」東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課 平成24年2月発行



## sphere 54 ●5 [コラム2]

指定管理者制度は、「公の施設」の管理運営を、営利事業者を含む外部の機関にゆだねる制度である。使用料の受益者負担や首长部局への移管などともに、いまの公民館をめぐる議論の目玉のひとつになっている。制度自体は2003年の地方自治法改正によって登場し、2005年文部科学省は「社会教育施設における指定管理者制度の適用について」という文書により、社会教育施設にもこの制度の適用が可能という見解を示した。いまでもないが、公民館は社会教育法を根拠法とする社会教育施設であり、日本の公的社會教育の中心となってきた施設である。現在、全国では8%程度に指定管理者制度が導入されている。例えば、愛知県のように390館のうち158館(40%)のところもある。東京都では、85館すべてにおいて今のところ指定管理者制度は導入されていない\*1。(ちなみに、この調査時23区での公民館は練馬区に1館(2012年

岩松 真紀

Maki Iwanatsu  
ろくまつ まき ●東京農工大学大学院 博士課程在籍 社会教育デザイン研究学会事務局長

# 指定管理者制度と公民館

春に生涯学習センターに移管))。住民のニーズの多様化・高度化に外部の有する専門性やノウハウにより応えることができ、同時に行政のスリム化が図られ経営資源の節約ができるというのが、指定管理者制度導入時に説明される一般的なメリットだろう。2011年度に行われたある調査での、指定管理者制度を導入している公民館(199館)に対する教育委員会の回答によるメリットは、経費削減効果がある80.4%、民間の創意工夫が発揮される64.8%、のふたつの割合が高く、利用者ニーズの反映や専門性の高いサービスの提供はいずれも50%未満であった。デメリットとしてあげられているのは、行政と指定管理者との役割分担が曖昧になりがち38.2%、事業継続性・安定性が不安33.2%、コスト優先の運営になりがち22.1%である\*2。

公民館は単に趣味を行なう施設と思われているのではない。だから使用しない側から受益者負担がいわれたり、民間の



ノウハウで経済効率をアップする指定管理者制度が支持されたりするのではない。調査によると公民館の具体的な役割・活動内容を知っている割合は、39.8%である\*3。行われている学習内容別学級・講座数をもと\*1、総数354,689件のうち「教養の向上」が184,557(52%)と最も多い。次いで「家庭教育・家庭生活」68,866(同19.4%)である。しかし7%ではあるが、数に比べて25,717件の「市民意識・社会連帯意識」の学級・講座が行われている。次にこの分野の件数の多い女性教育施設では1,596件である。社会教育施設のなかで、市民を育てる役割をもつのは公民館であるといえる。また、実際には、趣味・おれいここの講座がきっかけとなって違う目的、例えば地域を考えていくようなサークルができることもある。かつて三多摩では多くの公民館が住民の運動と学びによりつづられていった。その原動力のひとつの三多摩テーゼでは、公民館が住民のための学習・文化機関と



して行政から独立して教育機関本来の独自性をもつことが運営の原則にあげられている。また公民館職員の役割を、すべての住民の学習権を保障していくための奉仕者としている。指定管理者が公民館を運営する際、行政からの独立性は守られるだろうか。住民の学習はときに行政の立場とは相いれない方向に進む場合もある。そのときに指定管理者は、雇い主である評価する側の自治体と対峙し住民の学習権を保障できるのか。指定管理者だけの問題ではない。いまの公民館にも問われる課題である。●

\*1 文部科学省 社会教育調査平成23年度中間報告  
\*2 平成23年度文部科学省委託調査「生涯学習センター・社会教育施設の状況及び課題分析等に関する調査」報告書、平成24 年3 月、株式会社 インテージ  
\*3 文部科学省 平成22年度「生涯学習施策に関する調査研究」社会教育施設の利用者アンケート等による効果的社会教育施設形成に関する調査研究報告書、平成23年3月



## sphere 54 ●6 [コラム3] iCo-la! 社会教育デザイナー

# 仲間と学び、考え、ふみだそう一步!!

国 立市公民館で勤務を始めて1年半が経ちました。担当している講座を通して、公民館の学びはただ知識を学ぶだけでなく、ただ知り合いをつくるだけでもない、もっと広く深い意味があるように感じています。「女性の生きかたを考える講座」は国立市公民館主催講座の中でも長年続いている保育付きの講座です。今年度は週1回、5月から11月まで2ヵ月間の夏休みをはさんで半年以上続く、全20回のプログラムで行っています。学んでいる内容は「メディアの描く女性像」「女性のライフコース」「パートナーとの関係」「夫婦別姓」など、女性が生きていく

なかで向き合うさまざまな課題です。「学ぶ」といっても、講師のお話を聞き、最新のデータや資料を読むだけではありません。参加者、講師、担当職員がそれぞれ自分の考えや経験を話せる範囲で話し、自分に引き付け身近な問題として考えています。たとえば「ジェンダー」や「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を聞くとどこか難しい印象を受けてしまいがれど、この講座では次のように捉えています。“メディアの中で女性はどのように表現されているのか。その背景に

隠されている「女性らしさ」とは何か。“夫は仕事から帰ってくるのが遅くて育児もなかなか手伝ってくれない。長時間労働が原因となっている社会問題はどのようなものがあるか”。

平日の午前中、保育付きの講座のため、参加者の多くは子育て中の「主婦」の方です。講座を知ったきっかけも「ママ友からの紹介」という方が多くいらっしゃいます。でも講座伝はそれだけニックネームで呼び合うため、“○○ちゃんママ”でも“△△さんの奥さん”でもありません。

高下 由合

Yuri Kouge りうげ ゆり ●国立市公民館職員。大学卒業後3年間は民間企業に勤務。2011年より現職

また、子育て中の専業主婦という立場ではない女性もいらっしゃいます。同じ地域に暮らしているけれど、公民館の講座に参加しなかったら出会わなかった人たちかもしれない…。この講座を通してできた関係は、同じ地域で暮らす人たちのつながりでもあります。講座の卒業生でつづられた自主グループがいくつかあり、東日本大震災の時は自主グループの仲間同士で情報交換し合い、助け合うことができたという話も聞きました。日々の生活の中ではなかなか気づかな

い、でも本当は私たちにとって身近な生活や生きかたの問題を、ひとりの大人として、違った立場の人たちと話し合う。学びを通して、地域の仲間ができる。そしてそれは単に同じ地域に暮らす知り合いにとはとまらない、身近な問題を社会の問題へと掘り下げ共に考えていくことのできる仲間です。「違う立場の人」とは言っても、まだまだ限られた範囲でしかありません。今後も試行錯誤を繰り返しながら、社会や地域の問題を掘り下げ考え合う共同の学びの場をたくさんつくりだしていきたいと思っています。そんな意味を込めて、この講座には次のようなサブ・タイトルをつけています。「仲間と学び、考え、ふみだそう一步!!」。●